

令和3年11月21日(日)に、赤門鍼灸柔整専門学校 国分町校舎にて学術集会を開催いたしました。会場開催は久しぶりなので、しばらくぶりで会う会員同士は旧交を温め合いながら、近況報告などの話に花が咲いていました。笑顔がマスクで隠れてしまっていたため、破顔一笑といったところでしたので、早くマスクを外せるようになって、満面の笑顔が見られるようになるのを待ち遠しく思いました。

特別講演 鍼灸でラグビーワールドカップ日本代表を支える

順天堂大学スポーツ健康科学部 非常勤講師 SERVER BODY

井澤秀典 先生



日本ラグビー快進撃の原動力として活躍された井澤先生のお話は、詳細に場面が浮かぶようで聞き入りました。黒子として主役の選手をサポートする一人のスタッフとして、時には寝食や行動を共にしながら接する困難さ、またその中で深い慈愛に満ちたサポートを行う様子は、治療師として気持ちを新たにさせられる思いがいたしました。そして感染症の影響で1年ご講演が延びましたが、東京オリンピックにも関わられたということでもちらの話も伺うことが出来ました。最後にトレーナーになるためにはとの質問に、まずは現場に出向くといった、自ら行動を起こすことが大切という言葉は、これからの進路に迷っている現役学生の心を奮い立たせたことと思います。井澤先生の大舞台でのご活躍が今後さらに期待されます。またそのお話を伺えるのが楽しみです。

シンポジウム 未来を拓げる卒後研修について考える

筑波技術大学保健科学部附属 東西医学統合医療センター レジデントコース 望月憲之先生
トレーニングコース 鈴木 諄先生
福島県立医科大学 会津医療センター 鍼灸研修生 佐藤 駿先生

今回学生応援企画といたしまして、卒後研修の現場で学ばれている3人の先生にお話を伺いました。研修を希望した理由としてシンポジストの先生方は、未来への飛躍として学びの道を選択し、視野を広げその先で出会う疾患や患者様に対応できるようにと、熱意と尊さを感じるお話でした。また学生座長として福島県立視覚支援学校の渡部早貴さん、赤門鍼灸柔整専門学校の菅野早苗さん、お二人に進行をお願いいたしました。しっかりとした進行ぶりに未来の治療師としての姿が重なるようで、とても楽しみに思いました。



望月憲之 先生 (左)

鈴木 諄 先生 (右)



佐藤 駿 先生



渡部 早貴さん (左)

菅野 早苗さん (右)

一般口演として、「東北地区のはり師・きゅう師養成校学生に対するアンケート調査」ときわ会病院リハビリテーション科 三戸敦雄 先生よりご発表いただきました。

次回は、令和4年1月23日(日)福島県郡山市のビッグアイ市民交流プラザにてB講座(ハイブリット)を予定しております。